

ずいそう

登山 1,000 回達成を目指して

中 井 登



平成12年に（社）日本建設機械化協会中国支部に就職し、中国支部50周年記念事業、皆様の期待の持てる中国支部の活性化等3年間が瞬く間に過ぎました。

さて、十数年前事務所でいつものように、山談義をしていると「中井さんは山に良く行っているとの事だが、これまでどのくらい行ったのかな?」「なぜ、山に行くのかな?」と問われ、さて、これほど行っているのだから、かなりの回数になるだろうと思って（山に登った日を1回として数えてみた）小学校、中学、高校、大学の頃、社会人になって、結婚して、転勤で動いている時、郷里の広島県廿日市市に戻って、単身赴任になって、平成6年1月1日の正月には安芸の宮島の弥山にて500回目を迎えることができました。

その後単身赴任の解消、国土交通省退職、（社）日本建設機械化協会中国支部への就職、平成15年2月16日には、雪の雲月山（西中国山地）で900回目を迎え、環境も大きく変わる中、自分なりに思い出を頼りにあの頃は年間何回山に登ったかなと考えながら数えて見ると以外と少ない。それもそのはずである、社会人になって結婚するまでの広島山の会に入会しての年間30回と、最近、佐伯山の会に入会してからの年間平均45回が多いものの、子供の頃、結婚後子供が小さい時は少なく、趣味の日曜大工、町内会活動と山に行く時間が持てない、まさしく人生の時々によって山行の回数も変わっている。

このように山行回数にも目標を持てば、同じ山に何度行っても1回1回の山行が楽しみになり、安全な山行、無理の無い山行をしたいものです。

これまでに、登った山々、年齢毎の年間山行回数を巻き物にして、山談義をした人に見せると「これが何物にもまして中井さんの財産です」と励ましてもらったのは嬉しく、健康で有ればこそ、山にも行ける事に感謝する次第です。

また、私が山に行く理由として、スポーツは一般的に順位が付けられるが、山登りは順位を余り重視していない、むしろ調子の悪い人がいる時は全体をその人に合わせて行動する団体競技である、長い山道をただひたすらに歩き続け心との戦いであると共に、苦しい山行の時は日頃の悩みも忘れ心のリフレッシュにもな

ることから、山に行った日のあくる日は体調も良い。

山を歩いて思うこと、最近の里山は山頂まで林道が整備され、登山者が苦しい思いで山頂にたどり着くと、そこには車で来た人がいる、ゴミは出し放題で、私たち山の仲間も年に1回程度は清掃登山をして、思うのは山道にはほとんどゴミは無く、皆がゴミを争って取るような状況ですが残念ながら林道近くには清涼飲料の缶などがたくさん捨てられ余りの汚れように落胆する。山の自然を保護すべきの考えの一方で、便利になり多くの人に気楽に山の楽しみを味わって欲しいという気持ちです。

また、最近良く見られる大規模林道の整備にも考えさせられる、私自身環境を破壊して、ほとんど使用されていない林道整備が税金の無駄使いと言われるのも無理もないと思う。しかしながら反対活動をしているのは地域外の人が多く、一方で地元の人にとっては生活の利便性、地域産業活性化等から期待されていることに考えさせられる。

今後このペースで行けば62才頃には1,000回山行も夢でなく、1,000回達成時には思い出の有る山で1,000回記念山行を行いたいものです。但し、健康であればの話であり1,000回行けることは何よりも幸せな事と思っております。

今後とも中国支部の協会活動になお一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「今年も、1,000回を目指して頑張るぞ!」

